

## 5年生実践から見る 指導と評価

1. 単元名 「米づくりのさかんな地域」 ～これからもお米を食べ続けられるようにするためには～

### 2. 学校教育目標と社会科で目指す子どもの姿

(省略)

### 3. 単元目標

国民の主食である米を生産する稲作に関心をもち、稲作が国民の食生活を支えていることや従事している人が地形や気候などの自然条件を生かし、生産を高める工夫や努力をしていることについて調べ、稲作が自然環境と深い関わりをもって営まれていることを理解し、これからの稲作の発展や食生活との関わりについて考えるようにする。

### 4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、米づくりに関わる人々の工夫や努力を理解している。	①米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見いだし、米づくりに関わる人々の工夫や努力について考え、表現している。	①予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、米づくりに関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な米を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解する。	②米づくりに関わる仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を比較したり関連づけたりして、米づくりに関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基にこれからの米づくりについて、多角的に発展を考えたりして表現している。	②学習したことをもとに消費者や生産者の立場などからこれからの農業について、多角的に発展を考えようとしている。

## 5. 目指す子どもの姿に迫るための授業改善の5つの視点

### (1) 教材化 ～南魚沼のMさん～

「コシヒカリと言えば南魚沼」と言われるほど、圧倒的なブランド力をもった土地で米づくりに励んでいるMさん。おいしいお米を様々な人に食べて欲しいという思いのもと、レストランを営んだり、インターネットを介した全国販売に取り組んだり様々なことに挑戦しています。その取り組みは米の消費量が減っている現代に欠かせない努力であると考えます。そのような姿を、学習を通して知ること、長年受け継がれてきた米という文化をつなぎ、守るために日本の農家が数々の努力していることを知り、自分たちにできることは何かを考えるきっかけにしたいと考えました。

### (2) 学習過程 ～子どもたちが見通しをもち学習に参加できるようにする～

主体的な学びの実現に向け、子ども達が見通しをもって学習に参加できるようにしました。学習の導入では、単元を見通す学習問題を設定することで、この学習では何を学ぶのかを明確にしました。設定した学習問題に対して予想を交流し、視点を可視化することにより、子どもたちと一緒に学習の計画を立てることで、「ここまでは解決しているね。」「まだ分かっていないのはこの部分だね。」と学習の流れを子ども達と共有できるようにしました。

### (3) 学習活動 ～業間の学習の充実～

GIGA 端末が全市に配付され3年目となり、「かわさき GIGA スクール構想」もステップ3の段階を迎えています。だが現場の実態としては、学習中での活用や持ち帰りなどに関して学校毎の判断によるため、子どもたちの活用の力は市内でも差があると感じます。そこで今回は社会科における GIGA 端末の活用方法として業間の学習を考えました。授業時間内に次時の学習問題を設定することで、次の時間までに子ども達が GIGA 端末を活用し、調べられる時間を確保しました。また、資料を共有する際にも手元で見えるようにすることで理解を深められるようにしました。GIGA 端末を使いこなすことを目的とするのではなく、ツールの1つとして活用することで、主体的・対話的で深い学びの実現に近付きたいと考えました。

### (4) 指導と評価 ～指導を評価、評価を指導へ～

評価計画をもとに、その時間で子ども達に付きたい力ほどのような力なのかを明確にし、指導に臨みました。そのために「調べる」「考える」「話し合う」「表現する」などの学び方を指導していきけるようにしました。また、子ども達自身も自分が今何をすべきかが分かるようにしました。上記の GIGA 端末使用の中では、事前に子ども達がどのくらい調べられているのか把握した上で、声を掛けたり、一緒に考えたりするための手立てとしました。

### (5) 一人一人が生きる社会科学習 ～誰一人取り残さない姿勢～

日常的に行っている「やさしい話し方」「あたたかい聴き方」を意識することで、交流の中で学級全体が理解しながら進んでいくことを大切にしました。自分の考えを進んで伝え、相手の思いを受け止めることでお互いが相手の立場に立って、自由に考えを伝えられる雰囲気づくりにも取り組みました。「話し合いのズレの修正」、「聞き手の反応を逃さない」を意識しながら教師自身もファシリテーターとして、交流がより活発になるように支援するようにしました。

## 6. 問題解決的な学習の充実に向ける単元構想

①②学習問題を見出し、学習計画を立てる。

【思①】【態①】

主な国産品の産地

食料自給率

一人当たりの年間の米消費量

和食について

稲作のうつり変わり

③<単元を見通す学習問題>

私たちがいつも食べているお米は、どこで、どのようにつくられ、届けられているのだろう。

③お米はどこでつくられているのだろう。【知①】

日本の米の収穫量と分布

上位5道県、下位5都府県の収穫量

どうして生産量の多いところと少ないところがあるのかな。

④なぜお米の生産量が多いところと少ないところがあるのだろう。【思①】

盛んな地域の地形・雨温図

お米に適した自然条件に恵まれているところが、特に生産量が多いんだね。

⑤お米はどのようにつくられているのだろう。【知①】

米づくりカレンダー

南魚沼市の米づくり

作業の様子の写真

Mさんの話

⑥Mさんはなぜ田んぼに黒酢をまいているのだろう。【知①】

作業の写真

Mさんの話

農薬について

⑦Mさんは20haもある田んぼをどのように管理しているのだろう。【知①】

Mさんの耕地面積

Mさんの話

機械の写真

1年間かけてこれだけのことをしているんだ。米づくりって大変！他に工夫はあるのかな。

⑧なぜコシヒカリ以外に4種類の品種を育てているのだろう。【思①】

Mさんの育てている品種

店のHP

Mさんの話

農家の人達は安全でおいしいお米を効率よくつくるためにたくさんの工夫をしているんだね。

⑨新たな品種はどのようにつくられているのだろう。【知①】

品種改良について

農業試験場

⑩収穫された米は私たちのもとにどのように届けられているのだろう。【知①】

カントリーエレベーター

輸送の手段

輸送にかかる費用

⑪<単元を振り返る学習問題>

【知②】

私たちがいつも食べているお米は、どこで、どのようにつくられ、届けられているのだろう。

これまでの資料

これまでのノート

農家の人たちは安全でおいしいお米を育てるためにたくさんの工夫をしていた。お米の作り方だけではなく、輸送方法にも工夫があった。

⑫課題を解決するために農家の方はどのような取り組みをしているのだろう。【知①】

農家の減少と高齢化

耕地面積の減少

生産量と消費量の減少

お米が食べられなくなってしまったね。

⑬これからもお米を食べ続けられるようにするために大切なことはなんだろう。【思②】 【態②】

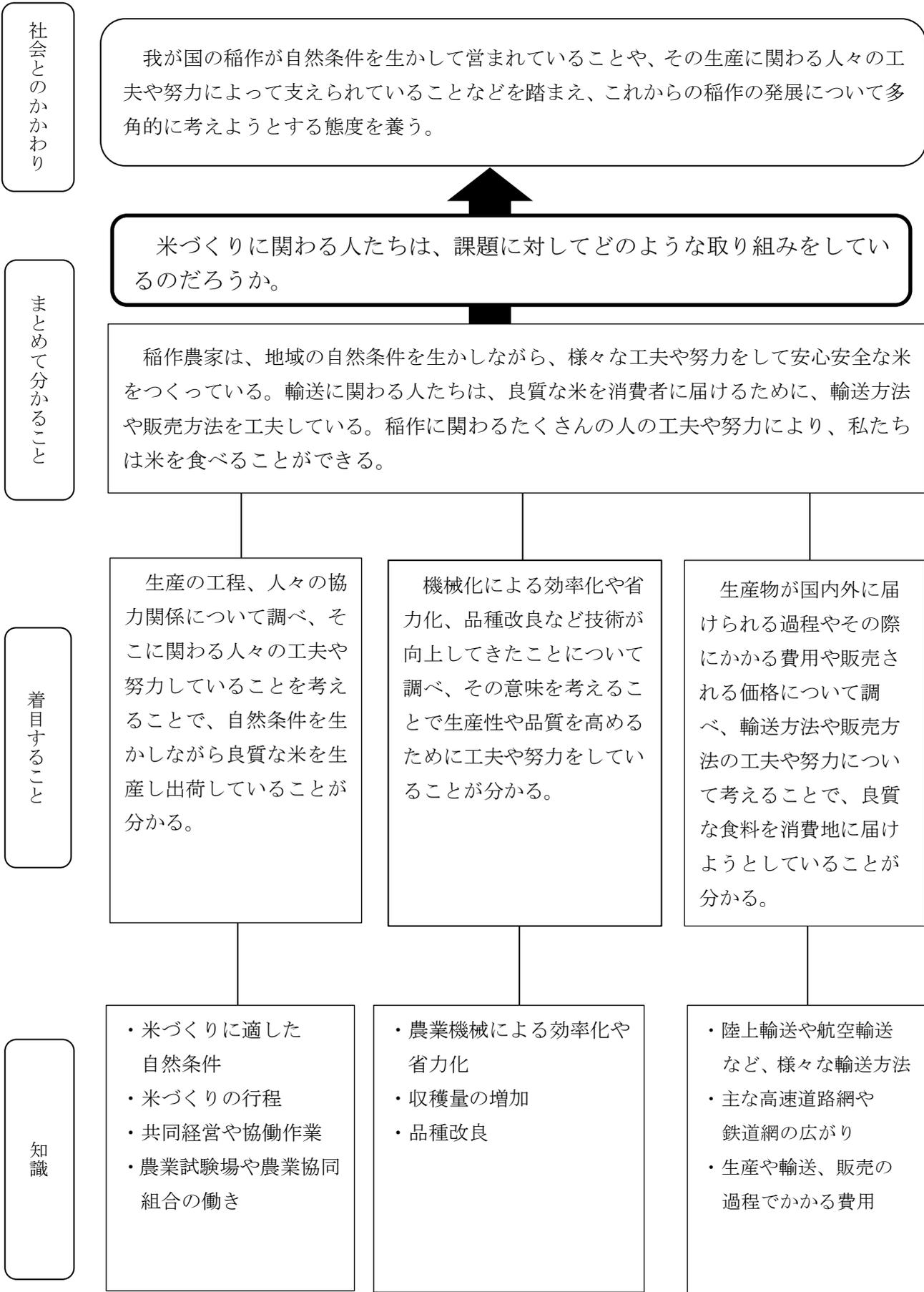
これからもお米を食べ続けていけるように、農家の人達は美味しい米をつくらせたり、農家を増やす努力をしたりしていた。私たちも感謝の気持ちをもって米を食べたり、残さずするようにしたりすることでお米を守っていきたい。私たちの行動からも広げていきたいね。

7. 資質・能力の育成に向けた学習評価計画（13時間） ※□は評価したことを記録に残す場面

○本時のねらい	○主な学習活動	◇主な資料	評価方法【評価規準】
①普段食べている米はどこでつくられているのか、どのような工夫をしているのかに疑問をもち、問いを見出すことができるようにする。	○米づくりについての疑問を話し合い、単元を見通す学習問題をつくる。 ○米はどこでつくられているのか農家はどのような工夫をしているのか予想する。	◇主な国産品の産地 ◇食料自給率 ◇食卓・給食の写真 ◇稲作の移り変わり	発言内容や話し合いの様子から「米の産地や農家の工夫について問いを見出しているか」を評価する。  【思—①】
②前時で見出した問いをもとに、学習計画を考えることができるようにする。	○前時の予想をもとに学習計画を考える。	◇①同様 ◇①の板書	発言内容や話し合いの様子から、「我が国の農業について学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。  【態—①】
③日本全国で米が生産されていることについて理解することができるようにする。	○米の産地調べを通して、日本のどこで米づくりが行われているのかを調べる。	◇日本の米の収穫量と分布 ◇上位5道県と下位5都府県の収穫量	発言内容やノートの記述内容から、「資料から必要な情報を読み取り、米の産地について理解しているか」を評価する。  【知—①】
④米づくりの盛んな地域の特徴を捉え、表現することができるようにする。	○米づくりの盛んな地域の特徴を調べ、米づくりに必要な条件を考える。	◇日本の米の収穫量 ◇米づくりがさかんな地域の雨温図	発言内容や、ノートの記述から、米づくりの盛んな地域の特徴を比較し、考えられているかを評価する。  【思—①】
⑤農家の方はどのように米づくりをしているのか理解することができるようにする。	○米づくりの方法について調べ、その作業内容を理解する。	◇作業の様子の写真 ◇Mさんの話 ◇米づくりカレンダー	発言内容やノートの記述から、米づくりの生産工程について理解しているかを評価する。  【知—①】
⑥農家のMさんが黒酢をまいていることを通して、安全で美味しい米をつくらうとしている農家の努力を理解できるようにする。	○なぜMさんが黒酢をまいているのかを考え、より安全で美味しいお米をつくらうとしていることを理解する。	◇作業の写真 ◇Mさんの話	発言内容やノートの記述から、安全でおいしい米づくりのために黒酢をまいていることを理解しているかを評価する。  【知—①】

<p>⑦Mさんはどうやってたくさんの田を4人で育てているのかを理解することができるようにする。</p>	<p>○たくさんの米を育てるためには機械が欠かせないことを理解する。</p>	<p>◇Mさんの話 ◇Mさんの耕地面積 ◇機械化について</p>	<p>発言内容やノートの記述から、農家の方は効率よい米づくりのために機械を使用していることを理解しているかを評価する。 【知—①】</p>
<p>⑧Mさんはなぜ4つの品種を育てているのかを考え、表現することができるようにする。</p>	<p>○なぜMさんが4品種育てているのかについて考え、表現する。 (GIGA)</p>	<p>◇Mさんの話 ◇Mさんの育てている品種 ◇品種改良について</p>	<p>発言内容や話合いの様子、ノートの記述から、農家の方が消費者に美味しい米を食べてもらうための努力や工夫について考え、表現しているかを評価する。 【思—①】</p>
<p>⑨新たな品種がどのようにつくられているのかを理解できるようにする。</p>	<p>○日本にある様々な品種の米はどのように生まれているのか理解する。</p>	<p>◇品種改良について ◇農業試験場</p>	<p>発言内容やノートの記述から、農家と農業試験場との協力関係について理解しているかを評価する。 【知—①】</p>
<p>⑩つくられた米がどのように私たちのもとに届くのか理解できるようにする。</p>	<p>○米がどのように届けられているのかを調べ、輸送方法について理解する。</p>	<p>◇カントリーエレベーター ◇輸送の手段 ◇輸送にかかる費用</p>	<p>発言内容やノートの記述から、輸送方法について理解しているかを評価する。 【知—①】</p>
<p>⑪これまでの学習を振り返り、農家の工夫や努力が日本の食料生産支えていることを理解できるようにする。</p>	<p>○前時までの学習をもとに「米はどこで、どのようにつくられ、私たちの基に届けられているのか」をノートにまとめる。</p>	<p>◇9時間目までの資料 ◇ノート</p>	<p>ノートの記述内容から、「調べたことをまとめ、米はどこで、どのようにつくられ、届いているのかを理解しているか」を評価する。 【知—②】</p>
<p>⑫日本の農業が抱えている問題に対し、農家はどのような取り組みをしているかを理解できるようにする。</p>	<p>○日本の農業の課題について知り、農家の方は、その課題に対してどのような取り組みをしているのかを調べる。</p>	<p>◇米農家として働く人の数 ◇生産量・消費量の減少 ◇耕地面積の変化</p>	<p>発言内容やノートの記述から、農家の人々がどのような問題を抱えているのかを、見出そうとしているかを評価する。 【知—①】</p>
<p>⑬米をこれからも食べ続けていけるようにするために大切なことは何かを多角的に考えようとしている。</p>	<p>○前時で話し合った農家の取り組みに対し、これからもお米を食べ続けるために大切なことは何かを話し合う。</p>	<p>◇これまでの資料 ◇これまでのノート</p>	<p>発言内容や話合いの様子、ノートの記述から農業が抱える課題への取り組みを多角的に考えようとしているかを評価する。 【態—②】 【思—②】</p>

資料「社会のしくみ」と「社会とのかかわり」をつなぐ理解の構想図



## 目指す子ども像

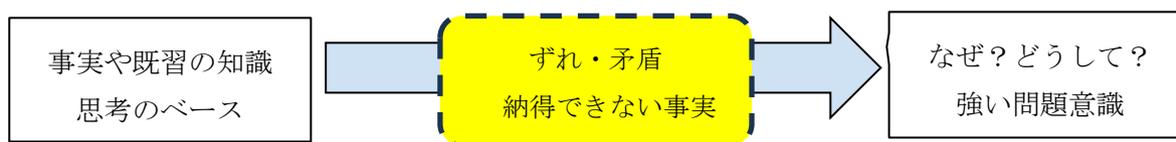
多様な見方や考え方を尊重し、よりよい社会の在り方を考えようとする子

## 5年部会の重点

### 「資質・能力の育成に向けた【深い学びのための】よりよい学習活動の工夫」

#### 重点1 強い問題意識を生み出すしかけ ～主体的に問題を解決しようとする態度の育成～

社会科の授業で子ども達が思考する際のベースとなるものは「事実」と「既習の知識」です。資料から事実を読み取ったり、既習とのつながりを意識したりすることで思考の歯車を回すことができます。そして、思考の歯車を回す原動力となるのが「問題意識」です。この「問題意識」が強ければ強いほど、子ども達の思考は活性化します。そこで、今年度の研究では、学習問題を立てる場面で「事実」や「既習の知識」に対して、ずれや矛盾を生じさせたり、子ども達にとって納得できないような新たな事実を示したりすることで、「強い問題意識」を生み出せると考えました。



#### 重点2 GIGA 端末を活用した業間の学び ～情報収集・活用能力の育成～

かわさき GIGA スクール構想のステップ3である今年度は「一人一人の子どもが主語の端末活用」を進め、協働的な学びや個別最適な学びを充実していくことが求められています。そこで5年部会では、GIGA 端末を効果的に活用することで、業間の学びを充実させられるのではないかと考えました。

##### 《業間の学びのイメージ》

- ①前時に学習問題を立て、予想を話し合う。
- ②自分の考えの根拠となる情報を教科書や資料集、GIGA 端末等を活用して集める。
- ③集めた情報をクラスで共有するために GIGA 端末を使ってまとめる。
- ④本時では、各自がまとめた資料を共有しながら全体で話し合い、思考を深める。

予想・仮説 → 情報収集（事実・データ） → 活用（考えの構築） → 共有

\*授業と授業の合間に児童が情報収集や活用を行い、本時で考えの根拠を共有しながら話し合うことで、主体的・対話的で深い学びを生み出せるのではないかと考えました。また、教師は GIGA 端末で各自の学びの状況を把握することで、適切な支援が可能になると考えました。

#### 重点3 言語化による思考の整理 ～自らの学びを振り返る力の育成～

重点2で示した学習活動によって、子どもの思考は活性化し、学級全体の思考の幅は大きく広がるのではないかと考えました。一方で、一人一人が協働的な学びを経て、学習のねらいを達成できたのか評価する場面が必要になります。また、協働的な学びが自身の思考の変容や深まりにどのような影響を与えたのかを振り返ることで、多様な考えを受け入れ、共に学ぶ姿勢につながると考えました。そこで、学習の終末場面では、振り返りを書かせる活動を行い、言語化による思考の整理を図りました。